

【青葉区】令和3年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和3年9月7日（火） 午後2時00分から午後3時10分まで
場 所	WEB会議室
出席者	【座 長】山下正人議員 【議 員：6名】田中ゆき議員、横山正人議員、行田朝仁議員、 藤崎浩太郎議員、大貫憲夫議員、平田いくよ議員
	【説明局員（青葉区）：24人】 小澤明夫区長、馬淵勝宏副区長、青木匡史福祉保健センター長、 吉田雅彦福祉保健センター担当部長、鈴木幸子青葉土木事務所長、 黒岩大輔青葉消防署長、ほか関係職員
議 題	(1) 「令和2年度 個性ある区づくり推進費 決算」について (2) 令和2年度 個性ある区づくり推進費（自主企画事業費）における新型コロナウイルス感染症に係る影響額とその活用 (3) 「令和3年度 個性ある区づくり推進費 執行状況」について (4) 令和3年度 個性ある区づくり推進費（自主企画事業費）における新型コロナウイルス感染症に係る影響額とその活用 (5) 「コロナ禍における生活様式の変化に関するWEBアンケート」の結果について
発 言 の 旨	横山議員 決算の関係について、コロナの影響で開催できなかったり執行できなかったものが多くあったと思うが、決算全体を見るとそれほど不用額が出ていないように感じる。予算を有効に活用した工夫が見られるが、所感を区長に伺いたい。
	小澤区長 基本的には、感染症対策物品を至急取り揃えたり機動的、緊急的に区で対応をした。3密防止の取組では、去年はマイナンバーで戸籍課の来庁者が増え、2階の待合いが混雑したため、1階でもお待ちいただけるよう呼び出しモニターを1階にも設置し、戸籍課だけでなく保険年金課の表示も併せて行った。 また、Zoomのライセンスを早い時期に取得し、ウェブ会議を4月頃から取り入れた。青葉区はWi-Fiの環境があったので、この区づくり推進横浜市議員会議も6月にはウェブで開催させていただいた。 また、区民マラソンはできなかったが、オンラインでのチャリティーランという形に変えるなど様々な工夫をして、コロナ禍においても機動的に対応できたと思っている。
	横山議員 今、区民の関心事はワクチン接種だと思うが、区民のワクチン接種状況について説明いただきたい。
	守屋総務課長 区民向けの接種方法としては個別接種と言われているものと集団接種、大規模接種がある。このうち集団接種については公会堂、スポーツセンターで実施しているが、非常に順調に進んでいる。5月から始めて8月末時点で6万8千人強の方に接種をしている実績になっている。この数字については18区の会場の中で最も多い。他区の平均だと大体4万件弱が18区の平均で、他区より順調に接種が進んでいると考えている。
	横山議員 集団接種に限らず、青葉区民がどの程度接種しているのか把握しているか。
	守屋総務課長 少なくとも、区では区民の接種状況、接種率は、現在把握できていない。今後、そうした資料を対外的にお示し出来るかについては、局に確認をしたい。

横山議員	これから総選挙が行われた場合の接種会場について、市長選挙のときは区庁舎の1階部分で開票作業を行ったので影響はなかったと思うが、総選挙の場合はスポーツセンターを使わざるを得なくなってくる。その間、接種ができなくなるのではないかとと思うが、それに対する対応はどうか。
守屋総務課長	スポーツセンター・公会堂については現在月曜日から毎日実施をしているが、今月中旬からは月・金は実施をしなくなる。恐らく衆院選が10月以降、11月頃かという話もあるが、そのときには開票に使う週末だけ、金曜日に一旦撤去をして、土日は集団接種の実施をしないで、土曜日に設営して日曜日に開票作業をして月曜日にもう一度接種会場としてつくり直すということで対応したいと現時点では考えている。
横山議員	こればかりはやむを得ない措置なのかもしれないが、なるべく接種者数が少なくならないような工夫をぜひしていただきたい。
横山議員	資料5について、この資料を見ると、例えば1のどのような影響があったかに対しては、体の健康や場合によっては心の健康も含めて、自分の健康についての不安を訴える方も非常に多い。そうなってくると、区民の体力や心の健康といったものをしっかりと守っていく必要がある。 幸いなことに青葉区の場合は日本体育大学があるので、専門家からの助言や動画を作ってオンラインで配信するなどの工夫も今後必要になってくるのではないかと。区民のこうした健康面、体力や精神的な健康に対してはどのように考えているか。
小澤区長	冒頭の概要説明でも申し上げたが、今回のウェブアンケートの結果では、そもそも健康について影響がある、もしくは健康管理の重要性について認識する方が増えており、次年度の予算については区民の健康の増進というのが一つの大きなテーマになると考えている。 従前より青葉区では、健康寿命日本一の街として健康づくりの事業を盛んに行ってきたので、今できていないことを着実に区民の皆様と一緒にやっていくのが来年度のテーマだと思っている。さらには、様々なご意見も取り入れながら、新しいことも取り入れて、区民と一体となって健康づくりをやっていくのが青葉区の特徴ではないかと思う。
横山議員	最後に、谷本公園の進捗について伺いたい。
續橋区政推進課担当課長	谷本公園の用地取得の進捗状況は前回と変わっていないが、今年度の予定として、487平米の用地取得に関して、環境創造局と一緒に交渉を進めていきたいと考えている。
藤崎議員	まず決算について、資料2で説明も頂いたが、もう少し詳しく教えていただきたい。決算資料3ページを見ると、差引きマイナス100万超えが5項目ある。各ページを見ていくと、感染症対策のお金に移ったのだろうと分かるものもあるが、中には動画に振り替えられたのか、ものによっては600万、700万近いマイナスがある。特に区民サービス向上のところはテレビ、モニターとかその部分なのか、ページだけ見ているとどの部分のお金がどう振り分けられたのかがよく分からないので教えていただきたい。
守屋総務課長	特に金額の大きい事業だと、ご指摘いただいた区民サービス向上事業については大きく超過して執行している状況である。混雑対策での活用に加えて、順次進めてきている庁舎の照明のLED化について、当初の想定よりも拡大して実施をした。脱炭素化ということも目指して進めたため、大きな執行になっている。 さらにもう一つ大きいものに青葉区防災の街づくり事業がある。400万以上超過して執行しているが、これも冒頭説明にあったが、感染症対策が急務であるため、不用となった財源を使い、庁舎内や避難所等で使う感染症対策物品を購入したことにより、超過をしているのが特徴としては大きいと考えている。

藤崎議員	<p>27ページの地域による起業等支援事業で、200万ぐらい超過しているが何に使っているのか。</p>
松永高年齢・障害支援課長	<p>高齢・障害支援課では、地域包括ケアシステムの推進と地域による起業等支援事業で増額させていただいた。まず地域包括ケアシステムについては、コロナ禍で集合型の研修というのが難しかった中、区民の皆様のエンディングノートを啓発するもので例年集合型の研修をしていたものを、動画をつくりDVDで配布したのと、区内東急の駅で配信をした。</p> <p>また、医療・介護連携のほうでも「ライフ100」という人生100年時代に対する啓発の冊子をつくっており、そのプロモーション動画も作成し、区役所の待合いや区内東急の駅で配信するほか、本市のユーチューブチャンネルにも掲載をしており、半年間で214回の視聴を頂いている。作成した動画は様々な機会でも今後も活用したいと考えている。</p> <p>もう一点、地域における起業等支援事業については、これまでセカンドキャリアの事業により、いろいろな方の起業の支援をしてきたが、そうした取組を一層加速するために、どういったことができるのかを去年調査委託した。その中で、ヒアリング対象となる区内で活躍する団体や、区外で先行事例となる対象団体を増やして実施したことと、調査報告を兼ねた勉強会を開催したこともあり、予算を超過した。</p> <p>効果としては、区内で他者を支援している団体と勉強会をすることによって関係づくりができたので、今年度もその関係づくりをもう少し進めたい。</p>
藤崎議員	<p>悪いことに使っていると思っではないが、決算時期の重要な資料なので、資料2等で補足の資料は用意していただいているが、コロナ禍でやむを得ない部分が多いのはよく理解しているので、もう少し詳しく資料を用意していただけただけのほうがよかった。</p> <p>もう一個だけ確認をするが、令和3年度の執行状況13ページで、区内ボランティア団体のIT化等支援事業の実施回数4回となっている。今いろいろなことがオンライン化されて、区役所としても、先ほどの健康問題やハマトレ等も動画を公開されているが、そもそも動画が見られるかどうか、オンラインで参加してもらえるかどうかということが、特に高齢のところでは課題だろうと思う。今回のボランティア団体のIT活用支援事業はどのくらい参加してもらっていて、どのくらい成果の実感を得られているのかを教えてください。</p>
松永高年齢・障害支援課長	<p>5か所の地域ケアプラザで、ボランティア団体等を対象にウェブ会議システムの活用に関する講座を実施している。講座の中身については、参加者側として受ける初歩的な講座、また、会議を主催する側としての動きを学ぶ講座、実際に会議を想定した実践用講座の3つから団体のニーズに合わせて実施している。</p> <p>緊急事態宣言で当初より予定が遅れている部分もあるが、現在のところ2つのケアプラザで開催しており、1回当たり4～6人という少人数できめ細かい指導をしている。ボランティア団体や自治会関係の方々、または地区社協、民生委員、老人クラブの方々などにご参加いただいている。</p> <p>地域活動団体の皆様がウェブ会議システムの使い方を学ぶことで、オンラインを活用したプログラムを作っていく、団体自身の活動が引き続き活発に行われるように支援していきたい。</p>
藤崎議員	<p>最後に注文だけ、ニワトリと卵みたいなもので、オンラインをやるために一度来てもらって勉強するという形なので、ここが悩ましいところだろう。講座がユーチューブ等で録画などできるのであれば、それを録画してお互いに教え合えるようにしていくとか、区役所だからこそ、ケアプラザだからこそできる行き届いた資料など、特に高齢者の人がつまずきやすい部分の資料をご用意いただけると、集まらなくてもボランティアの地域の方々同士で教え合えていくような形につながっていくとよい。</p>

大貫議員	<p>コロナに関して質問したい。資料5は面白いアンケートだと思うが、先ほど横山さんも言っていたが、結果的にこのアンケートで何が分かるのか。区として具体的に今後の問題として何か活かすものがあるのかと考えたときに、健康づくりが大事ではないかということと言われたが、今後、新型コロナウイルスの他にも様々な感染症が発生するような状況が起きてくると想定したときに、次の感染症に対して区はどのように関わっていくべきかといった内容も必要だったと思う。</p> <p>どのような設問でアンケートを取るか、区役所の中でどのように判断を行ったのか、お聞きしたい。</p>
中川区政推進課長	<p>アンケートを作成するに当たっての庁内での検討体制だが、基本的に問数を多くすると回答率が上がらないため、素案を区政推進課で作成し、その上で庁内のヒアリング、照会をして増減し、最終的な案とした。</p>
大貫議員	<p>問数の話ではなく、何を目的に調査するか、アンケートをするかということは区内での会議で論議が必要だと思う。こういった生活様式の問題も大事だが、現在のコロナに関わっている区民の皆さんが区に何をしてほしいのか、何が足りなかったのか、そういったことも聞いたほうが、次に同じような状況が起きたときに役に立つのではないかと。何を目的に調査をするのかという議論はしなかったのか。</p>
中川区政推進課長	<p>もともとの目的として、コロナ禍でどのように生活様式が変わったか、どういったところが気になっているのか、まさに生活様式の変化に関するアンケートなので、こういうところが意識として変わった、減った増えたというところをそもそもの目的として、経営責任職まで確認をした上でやっている。</p>
大貫議員	<p>今後予算で使わなかった、コロナ関係で使えなかった財源があるならば、次の状況、感染症対策のために区ではどのようなことを望むとか、そのためのアンケートを何かやってほしい。</p> <p>あとはコロナに関してちょっと心配なのだが、今、自宅療養の方が大きな問題になっている。青葉区ではどんな状況になっているのか。</p>
青木福祉保健センター長	<p>青葉区では現在、今週に関してはコロナの新規患者は大分減ってきたが、減ってきたといっても毎日20人、30人の方、1週間単位で250人程度の患者の発生届出があり、その大部分の方が自宅療養しているという状況である。</p> <p>先週以前、8月の半ばから後半にかけては、毎日60～70人の患者の届出があり、週当たり500人程度の方が自宅療養に入るといった状況だった。その方たちに関しては、区としても体制を整え、まずは自宅療養に入るに当たって、医療機関から届出を頂いた当日、遅くとも翌日には確実に福祉保健センターから連絡をして、その後、療養支援に入らせていただいている。療養支援に入るときには、保健師の聞き取りとか保健指導を1日、2日空けてにはなってしまうが確実に入れて、保健指導をするという形になっている。</p> <p>自宅療養に当たっては、県の療養支援班にLINEや電話で定期的に1日1回つながることと、現在は熱と酸素飽和度が重症度判断の一番の物差しになっているので、必ず酸素飽和度を測れるパルスオキシメーターと体温計を持っていただいている。それらを活用してご自身の自覚症状を捉えて経過観察しているという状況である。</p>
大貫議員	<p>自宅療養の方が急変して救急車を呼んでもなかなか病院に入れないということ、よくテレビなどで見ているが、私たちの青葉区はそういう事態にはなっていないということではないか。</p>
青木福祉保健センター長	<p>正直に申し上げると、そのような事態にはなっている。今週あたり緩和されてくるかと期待は持っているが、少なくとも8月中頃から後半にかけては、コロナが流行る以前なら当たり前のように入院し、酸素吸入をして薬を点滴するというような肺炎の方にも、自宅待機をお願いせざるを得なかった。そのような患者が市内で毎週100人、150人出ている状況を横浜市全体の保健所全体としては把握している。</p>

大貫議員	<p>そこが一番心配なので、青葉区としても本当に、病院に入れないで命を落とすようなことがないようにぜひお願いしたい。</p> <p>あと2点。一点は、在留外国人の方のコロナ対策支援を一番心配している。区としては国際交流ラウンジが関わってくると思うが、どういう形でやっているのかお聞きしたい。</p>
鈴木地域振興課長	<p>外国人の方で、コロナの関係でご相談がある場合は国際交流ラウンジにご連絡いただければ、例えば関係部署にご案内するなどご相談に乗っている。具体的な相談件数は今のところ把握はできていないが、そういった個別の対応をしている。</p>
大貫議員	<p>当然、手が足りなくなってしまうので区からの支援が必要だと思うが、その必要はないのか。国際交流ラウンジに対して、コロナに関わって人手が必要だとか、様々な要求があると思うが、聞いていないか。</p>
鈴木地域振興課長	<p>今のところ、そういう話は聞いていない。ただ、足りないとうことであれば関係局やY O K Eなどと連携しながら対応させていただきたい。</p>
大貫議員	<p>最後に、藤が丘駅前の再開状況はどうなっているか。</p>
續橋区政推進課担当課長	<p>藤が丘の状況は、前回ご質問していただいたときと変わっていない。市民意見募集で頂いた意見について、事業者である東急や昭和大学と対応方法などについて現在も検討しており、地元の皆様とも話し合いを継続している最中であり、まだ案は定まっていない。</p>
行田議員	<p>決算ということで数字があれば教えてもらいたい。</p> <p>1つはDV・虐待の関係で、子供の虐待とDVについて今回の決算にあるが、それ以前の数字があれば、1年間の件数がどのように変化しているかお聞きしたい。市民相談では様々な相談を多数聞くが、児童虐待とDVの数字について、実際に青葉区ではどうか。</p> <p>もう一つは、要介護認定の件数について、認定控えしていらっしゃる方が結構いると聞く。病気もそうだが認知症も含めて関わってくるもので、減っているのか、増えているのか、今の状況が分かれば示していただきたい。</p>
吉田福祉保健センター担当部長	<p>虐待の関係では、昨年は虐待の相談件数が全国的にも増えており、横浜市も同じような傾向だった。</p> <p>ただ、区役所へのご相談の件数自体は逆に減っている状況があり、これは区役所への情報が学校などから入ることが主な原因かと考えている。</p> <p>逆になぜ全体が増えたかということだが、警察に虐待なのではないかという通報があったり、神奈川県にLINEで相談があると児童相談所の対応になるので、その件数が全体の相談件数を押し上げている。</p> <p>対応を要する子供の数自体はコロナになってもそれ以前とあまり変わらないので、むしろ虐待の通報に対して、こんなの電話していいのかな、連絡していいのかなという区民・市民の方々のハードルが少し低くなったためと考えている。</p>
松永高齢・障害支援課長	<p>要介護認定についてだが、今年3月末現在で1万1856人の方が要介護認定を受けている。昨年のデータは、昨年9月時点では1万1605名ということで、251名の増加となっている。高齢者人口自体も少しずつ上がっているの、それに合わせた傾向と捉えることはできる。相談事を聞くと、コロナの関係でなかなか外に出られないというお話を頂くこともある。</p>

行田議員	<p>要介護認定に関しては、それほど数は変わっていないということだが、虐待はどうも増えている。実際に警察に通報があったりしたときに、区役所にも横の連携で情報が入っているのかと思うが、コロナで今のような緊急事態宣言下における対応で、職員の皆さんが多く出て行かなければならないということがあると思うが、人の命に関わる部分でも、実は人手が要るのかもしれないという心配をしている。情報に関しては、入ってくる情報、入ってこない情報があるのかもしれないが、青葉区としてはこの部分に関しては情報の捕捉をしっかりとしてほしい。</p>
田中議員	<p>私からは2点。1点目は、戸籍課の混雑対策をいろいろしているということだが、一方で保険年金課に電話をしても朝から晩までつながらない状況があった。区民の方からも同じ件で相談があったが、コロナで窓口に行っていない方の場合、電話対応の部分でつながりにくい状況をどのように把握しているのか。あるいは、区民の皆さんから電話が繋がらなくて困っているという声があるのか。</p>
高橋保険年金課長	<p>かなり電話がつながりにくいというお声、お叱りをお受けしていることはある。実態として、窓口対応を優先せざるを得ないこともあり、電話がつながりにくい事態となっている。メールでの問合せも多くあり、メールで確実にその日のうち、もしくは遅くとも翌日にはご回答差し上げているという状況である。</p> <p>また、いろいろな手続等についてもコロナのため郵便での対応も受けている。コロナの状況であっても、極力影響がないように努めていきたい。</p>
田中議員	<p>ご相談いただいた方もメール等の対応は難しい方だった。今後も電話がつかないような状況の声があったときには、郵送手続にする前に電話でご相談をしなくてはいけない案件が多いと思うので、ぜひ充実していただきたい。</p> <p>もう一点、区役所前のバス停の屋根がついた下のところにベンチを設置してほしいという声を頂いている。難しいという理由があれば教えていただきたい。</p>
續橋区政推進課担当課長	<p>区役所前のバス停のベンチの件は、歩道の幅員が3メートルぐらいしかなく多くの通行人がいる中で、現在、バス事業者である東急と土木事務所とで検討している。</p>
田中議員	<p>実際、バスを待つときに、小雨の日や暑い日などは玄関の内側に立ってお待ちいただいて、バスが見えたら急いで下りていくという状況がある。立って待つには体に負担がかかる方が多いので、可能な範囲で対応いただきたい。</p>
平田議員	<p>私の周りの医療従事者や福祉関係の方から、区役所の方に親切に対応いただいていると聞いている。区役所の方々に感謝を伝えたい。</p>